

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2021年1月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2021年1月12日～1月29日
- 調査対象 200社
- 回答企業 126社
- 回収率 63.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の1月の状況を見ると業況DIは、前月より5.0ポイント悪化の▲46.0となった。

2017年9月以来41ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲49.2、当月と比べ3.2ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2020年 8月	9月	10月	11月	12月	2021年 1月	先行き見通し 2021年2月～ 2021年4月
業況	▲43.4	▲51.6	▲44.8	▲42.3	▲41.0	▲46.0	▲49.2
売上	▲49.6	▲50.0	▲43.2	▲38.5	▲45.1	▲44.5	▲57.1
採算	▲38.7	▲47.0	▲40.8	▲35.3	▲37.7	▲43.7	▲50.0
仕入単価	▲22.5	▲16.1	▲12.0	▲17.2	▲14.8	▲16.6	▲23.0
販売単価	▲13.2	▲17.7	▲12.8	▲16.4	▲10.7	▲16.7	▲15.0
従業員	16.3	22.3	21.6	19.7	13.9	8.7	8.7
資金繰り	▲20.2	▲21.5	▲18.4	▲23.0	▲19.7	▲19.0	▲23.0

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2020年 8月	9月	10月	11月	12月	2021年 1月	先行き見通し 2021年2月～ 2021年4月
建設	▲30.0	▲23.3	▲21.4	▲18.5	▲22.2	▲22.2	▲40.7
製造	▲50.0	▲66.7	▲64.5	▲44.9	▲38.7	▲45.2	▲45.2
卸売	▲18.5	▲32.0	▲32.0	▲25.0	▲25.9	▲35.7	▲42.9
小売	▲42.1	▲57.9	▲35.0	▲57.9	▲61.1	▲58.8	▲58.8
サービス	▲85.7	▲80.8	▲71.4	▲70.8	▲73.7	▲78.3	▲65.3

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年4月より時間外労働の上限規制が建設業にも適用されることから早急に「働き方改革」に取り組む必要があるが、品質の維持・向上との両立、発注者及び協力業者との温度感の違い、業界の慣行・慣例等、越えるべきハードルが高いのが現実。ICTの導入を含め生産性向上を指向し、具体的な取り組みに着手する。「働き方改革」を進める上でコストを補填する補助金や助成金の組み立てを希望する。（総合工事） ・新型コロナウイルスの影響なのか少しずつではあるが工事の受注件数が減少してきた。しかし昨年と比べ大幅な落ち込みではないため、年度内の業績には大きな影響は出ないと考える。人材については採用により充足してきたが、欲しい人材（有能な管理職）の採用ができない状況にある。（設備その他） ・受注工事不足（～4月）（建築）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスで東京、大阪等に緊急事態宣言が発令されたことで今後取引先の発注が大きく減少し、資金繰りの更なる悪化が懸念される。（食料品） ・ここ数年来傾向がみられる印刷需要の減少に加えて、昨年から続いているイベントの中止に伴い、周知・集客目的の印刷ツールの発注が止まっている。（印刷・出版） ・受注が思わしくない中、主要仕入れ資材のアルミ材は価格が上昇。コロナウイルスの感染がどのような経過を辿っていつ頃収束するのかまったく見通しが立たない。従来受注の動きとは大きく変化してきている。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的な寒波や大雪の影響で防寒商品の需要が増加した。その影響で暖冬だった昨年とは違って売上が増加した。（繊維・衣服等） ・巣ごもり需要とみられる需要が一定程度あったと見られる。次月以降の販売状況を注視したい。（飲食料品） ・灯油の仕入れ価格が上昇しているため、販売価格を引き上げる予定。（その他） ・新型コロナウイルスによる影響は現時点ではない。（機械鋼材）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・外出自粛・緊急事態宣言発令による売り上げ大幅減少。（食料品） ・令和2年12月同様コロナウイルスの影響により外出自粛になり、令和3年1月2日初売りウインターセールもお客様の足が鈍く売り上げが前年の40%減で大変な状況である。（衣服見回品） ・除排雪も含めた現場燃料の出荷はますますだが仕入価格急騰による採算面悪化が予想される。自粛要請の解除にもよるが訪問活動による外販営業の低下が不安。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響が原因で旅行者の減少により、ホテル及びその他の洗濯物が前年比3割の減少が続いている。非常に厳しい経営をしている。（理美容・クリーニング） ・GoToトラベルが2月7日まで停止。それに伴いあさっぴー割も停止し、厳しい状況。2月7日までの停止も全国的に感染が落ち着かないと延長する可能性もあり先行きは不透明な状況である。（ホテル・旅館） ・冬季間の増収が見込める時期であっても市民行動が移動に対して消極的であるこの状況が好転しないことには資金面での不安が払拭できない。事業計画見直しもままならず、出口を模索している状況は変わらず。従業員もお客様も「うつらない・うつさない・仲介しない」を徹底して進める。（運送） ・今年度は新型コロナウイルスによる影響も少なく前年度並みの売上を確保できたが次年度は公共、民間投資ともに大きく減少が予想される。また、リモートワークに対応する為の設備投資、労働環境の整備が必要。（その他）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI7.4 ポイント改善、採算 DI7.4 ポイント改善、仕入単価 DI7.4 ポイント改善、販売単価 DI7.4 ポイント悪化、資金 DI7.4 ポイント改善、従業員 DI 横ばい。総じて業況 DI は横ばいとなった。業種別では、設備・その他 10 ポイント悪化、建築業横ばい、総合工事 8 ポイント改善となった。工事利益率の低下により、採算悪化傾向となっている。工事施工費の悪化が原因と思われるとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI9.7 ポイント悪化、採算 DI22.6 ポイント悪化、仕入単価 DI6.5 ポイント悪化、販売単価 DI6.4 ポイント悪化、資金 DI3.3 ポイント改善、従業員 DI9.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 6.5 ポイント悪化となった。業種別では、食料品、印刷・出版横ばい、家具・木材 4 ポイント、金属窯業他 17 ポイント悪化となった。新型コロナウイルスによる影響で得意先（仕出し他）の納品が前年の 80% 近く落ち込んだとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI11.3 ポイント改善、採算 DI10.0 ポイント悪化、仕入単価 DI3.9 ポイント改善、販売単価 DI4.2 ポイント改善、資金 DI3.2 ポイント悪化、従業員 DI7.9 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 9.8 ポイント悪化となった。業種別では、繊維・衣服等 20 ポイント改善、機械鋼材横ばい、食料品 7 ポイント、その他 40 ポイント悪化となった。コロナ禍を経験していない 2 月中旬までは今まで同様低迷するだろうとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI13.4 ポイント改善、採算 DI2.7 ポイント改善、仕入単価 DI6.2 ポイント悪化、販売単価 DI11.0 ポイント悪化、資金 DI13.1 ポイント悪化、従業員 DI22.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 2.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 8 ポイント、その他 13 ポイント悪化、衣料品横ばい、自動車 50 ポイント改善となった。新型コロナウイルスによる来店者の激減（地元市民・観光客）との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI10.3 ポイント悪化、採算 DI4.9 ポイント改善、仕入単価 DI10.3 ポイント悪化、販売単価 DI18.0 ポイント悪化、資金 DI10.1 ポイント改善、従業員 DI13.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 4.6 ポイント悪化となった。業種別では、理美容・クリーニング、その他、飲食、運送横ばい、ホテル・旅館 20 ポイント、整備業 10 ポイント悪化となった。売上は低調、お弁当、テイクアウトにシフトしているが単価を下げているため赤字。もともとスタッフを 20 名以上抱え辛い。首は切れない。人件費は抑えているが更に経営を圧迫している。まだ地獄の 1 丁目か。この先不安しかないとの声も寄せられている。</p>